

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称 博士（医学） 氏名 夏賀 健

	主査	教授	山	本	有	平
審査担当者	副査	教授	清	水		宏
	副査	教授	有	賀		正
	副査	教授	守	内	哲	也
	副査	教授	笠	原	正	典

学位論文題名

Molecular genetics of plectin-deficient epidermolysis bullosa and identification of IgA and IgE autoantibodies in anti-laminin 332 mucous membrane pemphigoid
(プレクチン欠損型表皮水疱症の分子遺伝学的解析および粘膜類天疱瘡患者の抗ラミニン 332IgA・IgE 自己抗体同定)

第一章の Molecular genetics of plectin-deficient epidermolysis bullosa (プレクチン欠損型表皮水疱症の分子遺伝学的解析) では、プレクチンの変異によって生じる二つの異なる表皮水疱症、筋ジストロフィー合併型表皮水疱症 (EBS-MD) と幽門閉鎖合併型表皮水疱症 (EBS-PA) の発生機序の解明についての研究内容が発表された。審査では、EBS-PA において幽門がなぜ閉鎖するかという点が問われた。これに対しては、プレクチンとインテグリンの結合が幽門の発生に重要であるという説と、幽門が消化管のうちで最も狭いところであり、消化管粘膜の障害から二次的に線維化を起こして幽門が閉鎖するという説の二つが発表者から紹介された。

第二章の Identification of IgA and IgE autoantibodies in anti-laminin 332 mucous membrane pemphigoid (粘膜類天疱瘡患者の抗ラミニン 332IgA・IgE 自己抗体同定) では、一部の抗ラミニン 332 型粘膜類天疱瘡患者では、IgG 自己抗体とともに、ラミニン 332 に対する IgA と IgE 抗体が同定されることが証明されたという内容の発表であった。審査では同定された IgA、IgE 自己抗体の病的意義について問われたが、発表者からは、今回の研究ではいまだ病的意義は明らかとならず、臨床症状との相関についてもはっきりしないという回答であった。

この論文は、第一章、第二章ともに疾患の病態メカニズムを明らかにする重要な手掛かりを提起したといった点で高く評価され、今後のさらなる病態解明や治療法の開発などにつながる第一歩となることが期待される。

審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ申請者が博士（医学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。